学校番号	209

令和８年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校化学基礎　visual						
副教材等	アクセスノート化学基礎 改訂版						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校まで学習した理科のうち、物質やその性質、その変化について基礎的な内容を学習します。また、実験を通じて、器具や薬品の適切な取り扱い方を学びます。その上で日常生活に使われる化学の知識とその意義を学びます。受講生には根気よく取り組む姿勢を求めます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
日常生活で化学の基礎的事項を学習し、物質とその変化について知識を得る。
【思考力、判断力、表現力等】
実験や観察を通じ、今後の生活に役立つ手技などの能力をつける。
【学びに向かう力、人間性等】
実生活における化学への関心を深め、身の回りの現象を科学的に解釈する態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	中学校までで学んできた理科の知識を、物質を軸にまとめて理解するとともに、実験に必要な基礎的な能力を身につける。	物質やその変化を化学式や化学反応式で表現し、その量についても正しく計量できる。	化学についての基礎的な　知識を日常生活で活用する姿勢をもつ。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	物質の構成	物質の成分 状態変化 原子の構造 イオン 元素 結合と結晶	a: 物質の成り立ちについて理解し、原子の構造や原子間の結合様式の知識を身につけている。 b: 物質の成り立ちを記号等で簡潔に表現でき、物質の変化において、熱・化学エネルギーとの関係を判断できる。 c: 身近な物質に関心をもち、物質の性質について、原子間の結合との関連を探究し、一般化しようとする。	定期考査 レポート	定期考査 実験 レポート	授業態度 ふりかえり
2	物質の変化	原子量 物質量 濃度 化学反応式 酸と塩基 水素イオン濃度 中和	a:物質量や化学式について知識を身につけている。 a:酸・塩基の定義を理解し、基本的な実験器具の操作ができる。 b:物質量について基本的な計算ができる。 b:酸・塩基の強弱や中和反応について、実験結果を科学的に考察できる。 c:化学変化の量的関係を質量や体積、物質量と関連付けて考察する姿勢をもつ。 c:日常生活で、酸や塩基の概念やｐＨを意欲的に用いている。	定期考査 レポート	定期考査 実験 レポート	授業態度 ふりかえり
3	物質の変化	酸化と還元 酸化剤と還元剤	a:電子の授受などの酸化還元反応の知識を身につけている。 b:電池や金属の精錬を酸化還元反応と関連させて考察することができる。 c:酸化還元反応の利用について、身近な製品から積極的に考察、探究しようとする。	定期考査 レポート	定期考査 実験 レポート	授業態度 ふりかえり

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度